

KOBE2024 世界パラ陸上競技選手権大会 総評

日本パラ陸上競技連盟
強化委員長 穴戸英樹

神戸 2024 世界パラ陸上競技選手権大会は、東アジア初開催で種目数が 168 種目、104 ヶ国の参加でエントリー数は 1073 人となりました。

日本選手団は 66 名のエントリーとなり、成績としては銀メダル 9 個、銅メダル 12、計 21 個となり、新たに国に与えられる出場枠（パリ世界パラ選手権で 4 位までの出場枠を除き、上位 2 名まで）の獲得数は 3 枠となりました。

これは、前回のパリ世界パラ選手権の 11 個を上回り、過去においては、2011 年クライストチャーチ世界大会で獲得した 23 個が最多でしたが、マラソン種目で 4 個の獲得でしたので、トラック&フィールドの大会では最多となりました。内訳としては、短距離 7 個、中長距離 1 個、跳躍 5 個、投擲 3 個、車いす 5 個となっています。

今大会においては、金メダルの獲得が無かったことが悔やまれるところで、T13 福永凌太、T52 佐藤友祈、T11 唐澤剣也が狙っていましたが、共に世界記録保持者との対決や世界記録を樹立された状況での厳しい戦いとなりました。今年はパリパラリンピックがあるため、各国のトップ選手が出場を回避することが予想されましたが、種目によってはトップ選手が多く出場し、パリパラリンピックへ向けて順調な仕上がりをを見せていました。しかし、この経験と結果が日本選手にとってメダルを獲得するための目標設定が明確になったことは、大きな収穫であると選手・スタッフ共に捉えております。

今回の特徴としては、東京パラリンピック前後から強化の対象となっている選手が躍進し、F53 鬼谷慶子、T13 川上秀太、T64 大島健吾が、新たに上位 2 人までに与えられる出場枠を獲得しました。更に、前回のパリ世界パラ陸上競技選手権大会と連続でメダルを獲得し安定した力を発揮したのは、金メダルを狙っていた 3 名に加え、F46 齋藤由希子、T64 中西麻耶、T12 澤田優蘭、T52 伊藤竜也となっており、パリパラリンピックでは現状より上のメダルを目指します。

また、日本人選手同士では、T11 唐澤と和田が中長距離で、T63 兎澤・前川が跳躍と短距離で、T64 大島と井谷が短距離で、T34 小野寺と北浦と吉田が短距離と中距離で対決をしておりますが、今後お互いに競い合い高めあっていければ、上位を狙っていけるとおもわれます。

強化としても、メダルポテンシャルの高い選手に対しては、より力を注いで参ります。

課題としては、4・5 位が 19 種目でメダルへ届く可能性がある選手が多いことから、パリへ向けては、それぞれの強化の見直しを図るとともに、拠点指導の充実と日ごろからのコンディショニング管理について、パートマネージャーと各スタッフ陣、医事委員会の連携をより密にして強化をしていきます。

今回の選手の活躍については、日本開催であった事や東京大会では無観客で声援や応援が届きづらかったのに対し、幼稚園や小中学校、特別支援学校等の児童生徒の応援や、会場へ足を運んでいただいた方々の応援が大きな力となりました。また、競技運営を担当して下さった競技役員やボランティアの方々、連日報道をして下さったメディアの方々のおかげで注目度も上がり、選手一人ひとりのモチベーションが高くなり、好成績に繋がりました。大会に関してご尽力をいただいた全ての皆様に感謝いたします。